

平成25年度「新入生の生活に関する調査」

学生・キャリア支援センターでは、文部科学省特別経費プロジェクト「統合型学生支援システムの構築による女子高等教育機会の保証」の一環として、平成25年度新入生（学部）とその保護者を対象に「新入生の生活に関する調査」を実施しました。

調査内容は、大学入学までの進路選択・決定、卒業後の進路志望、学生生活の経済的基礎、学生支援活動への期待（以上は新入生自身への調査）、家計支持者の職業、世帯年収、学歴、学生支援活動への期待（以上は新入生の保護者への調査）など多岐にわたるもので、いずれも、大学生活の基盤や大学へのニーズを明らかにすることによって、本学の学生・キャリア支援活動をより効果的に実行するための基礎資料として活用することを目的としています。

平成25年度入学者のうち、新入生自身への調査では84.4%、新入生の保護者への調査では82.3%の方々から、調査の返送および分析許可を得ることができました。

今回から5回にわたり、「学生・キャリア支援センターResearch Report」として、10月に発行された報告書の内容の一部を紹介しています。なお、報告書は学生・キャリア支援チーム（内線2646、gakusei@cc.ocha.ac.jp）で冊子を手取できるほか、TeaPotからもPDF形式でダウンロードいただけます。

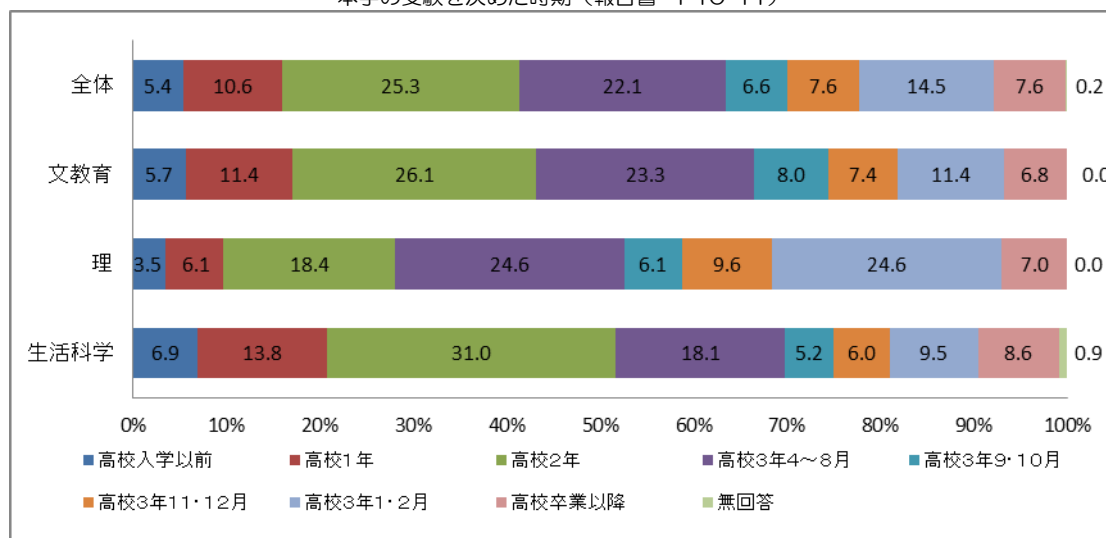
(<http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/handle/10083/53912>)

第1回 「お茶の水女子大学を志望した時期や度合い」

1. 早期からの受験校決定

本学の新入生は、いつ頃から、本学の受験を決めたのでしょうか。

本学の受験を決めた時期（報告書 P10-11）



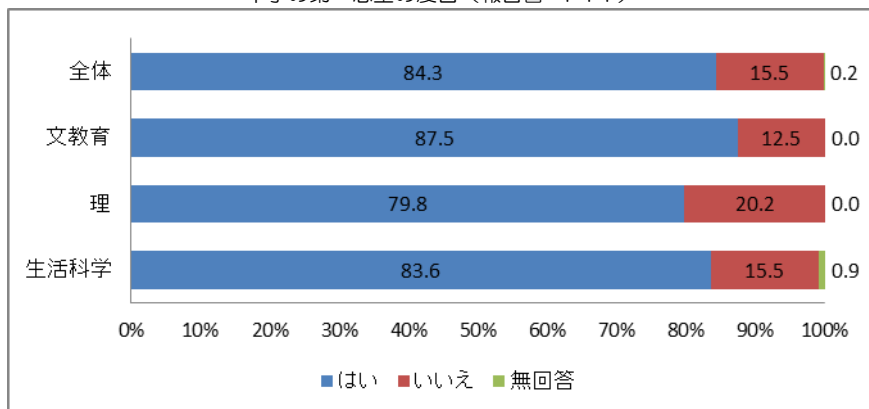
全体で見ると、昨年度同様「高校2年」が25.3%と最も高く、「高校3年4~8月」が22.1%が続いています。

ただし学部により差があり、理学部では「高校3年1・2月」が「高校3年4~8月」と同じく24.6%と最も高く、センター試験の結果をふまえて、本学の受験を決めた学生も少なからずみられます。その一方で、生活科学部では高校2年までに本学の受験を決めた学生が51.7%と半数を超えています。学部によるこうした傾向は、昨年度も同様に示されています。

2. 全体の85%が本学第一志望

では受験時には、どの程度の新生が本学を第一志望としていたのでしょうか。

本学の第一志望の割合（報告書 P11）



受験時に本学が第一志望であったか否かについて尋ねたところ、全体で見ると84.3%が本学を第一志望としており、昨年度とも大きな差はみられません。

ただし学部別にみると、昨年度は、理学部では第一志望の割合が他学部に比べて15ポイント以上低い結果でしたが、今年度は、昨年度ほどの違いは示されていません。

3. 高校卒業後、すぐに本学へ入学

さいごに、本学の新生は、高校卒業後にどのような経験をして、本学に入学したのかについてみていきましょう。

高校卒業から現在までの間に経験したこと（複数回答可）（報告書 P11） (%)

	他の高等教育機関に入学した	フルタイムで働いた	浪人した	海外留学をした	この中にはない	無回答
全体	1.0	0.0	13.8	0.2	77.4	8.4
文教育	1.1	0.0	10.8	0.6	82.4	6.3
理	0.0	0.0	15.8	0.0	75.4	8.8
生活科学	1.7	0.0	15.5	0.0	72.4	11.2

高校卒業から調査時期（大学入学前年度の3月）までに経験したことについて尋ねたところ、昨年度同様、「浪人した」以外の項目は、いずれもごくわずかな経験率であり、学部別にみても大きな差はみられませんでした。

次回は、
「お茶の水女子大学に入学後の学生生活」
について、ご報告します。

